

診療放射線技師だからこそ 医療・社会課題に取り組む



宮田 充
(みやた みつる)

・大阪大学 医療技術短期大学部を1995年に卒業。
・診療放射線技師として約21年間を医療機関で様々な検査に従事し技師長も経験。学生時代の卒業研究の継続と福祉工学を学ぶ為、病院勤務の傍ら2010年から九州工業大学大学院 生命体工学研究科へ進学し「聴覚障害者向けX線検査支援システム」を研究。最終学位は博士(工学)。
・2016年から株式会社アイエスゲートとの共同研究開発に取り組み、システムが実用化した2017年より現職。現在、更なる研究開発や社会貢献活動として聴覚障害者の方々向けの「がん教育」「がん検診の受診機会創出」、および医療従事者向けの「X線検査における情報保障等に関する講演」なども行っている。

学協会、その他における活動

・北九州放射線技師会 理事(2007年4月～2009年3月)
・北九州放射線技師会 学術委員(2008年4月～2010年3月)
・ヒューマンインタフェース学会 看護用具・用具開発に関わる専門研究委員会運営委員(2010年8月～2018年12月)
・国立がん研究センター 八巻研究班「障害者への健康医療情報提供のあり方とヘルスリテラシー概念の再検討に関する研究」会議メンバー(2018年12月～現在)

表彰等(株式会社アイエスゲート)

・国立研究開発法人 情報通信研究機構 情報バリアフリー事業「S」評価(2017年)
・国立研究開発法人 情報通信研究機構 情報バリアフリー事業「S」評価(2018年)
・東京都トライアル発注認定商品「e-検査ナビ」(2018年)
・国立研究開発法人 情報通信研究機構 情報バリアフリー事業「S」評価(2019年)
・世界発信コンペティション 東京都ベンチャー技術特別賞「e-検査ナビ」(2019年)
・国立研究開発法人 情報通信研究機構 情報バリアフリー事業「S」評価(2020年)
・東京都「心のバリアフリー」サポート企業(2020年)
・感謝状：公益財団法人 日本対がん協会(2020年)
・国立研究開発法人 情報通信研究機構 情報バリアフリー事業「S」評価(2021年)
・感謝状：公益財団法人 日本対がん協会(2021年)
・がん対策推進優良企業：厚生労働省委託事業 がん対策推進企業等連携本部(2021年)
・令和3年度福祉のまちづくり功労者に対する知事感謝状：東京都福祉保健局(2021年)
・東京都「心のバリアフリー」好事例企業(2021年)
・内閣特命担当大臣 優良賞：内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン功労者表彰(首相官邸)(2022年)

100人カイギでの登壇内容の要約

大きく3つをお話ししました。一つ目は、高校生の頃から現在に至るまでの経緯です。診療放射線技師のことを全く知らなかった高校生が、センター試験失敗や国家試験不合格の挫折を経て現在に至るまでの経緯です。挫折しても、諦めなければ素晴らしい方々と出逢ったことで、学生時代の卒業研究が実用化し博士の学位を得たりなどに繋がるということ。二つ目は、これから取り組んでいくこと。三つ目は、知って欲しいことについてです。

100人カイギのオファーを受けた理由

尊敬する吉川典子さんから声をかけいただきお受けしました。また、100人カイギには、志がある若い技師さんや学生さんが参加されているとのことでしたので、私の経験等が少しでもお役に立てればと思いました。

100人カイギに登壇or参加した感想、 およびそれがきっかけで変わった事

第6回での登壇を機に100人カイギの虜になり、今ではボランティア運営メンバーをさせて頂いています(笑)。

なぜなら、他の登壇者をはじめ運営メンバーや参加されている方々のような、志高く思考し、行動されている方々とめぐり逢うことはなかなかないからです。100人カイギに参画したことにより出逢えた方々のおかげで、私自身の視野も人脈も広がりました。

現場で一生懸命に尽力されている診療放射線技師の方々や、これから診療放射線技師となっていく学生の方々に支援することで、日本の医療に貢献したいと改めて実感しています。

100人カイギでまだ伝え足りなかった と思う事・今また更に伝えたい事

「聴覚障害」と「障害の社会モデル」についてお伝えしたいと思います。障害者差別解消法の改正法が2024年4月1日から施行され、民間事業者も「障害者への合理的配慮」が努力義務から「義務」に変わるからです。

私は診療放射線技師であると同時に福祉工学、中でも聴覚障